



# 日耳鼻医学会 FAX ニュース NO 146

平成20年11月15日 発行 (特)日本耳鼻咽喉科医学会 E-mail jimu@jenti.or.jp HP http://www.jenti.or.jp  
〒104-0031 東京都中央区京橋2-11-8 全医協連会館5F FAX 03-5524-5228 TEL 03-5524-5230

## 外来管理加算でアンケート調査実施

日医の竹嶋康弘副会長は10月26日、日医臨時代議員会で、外来管理加算の算定に関するアンケート調査を今月から実施していることを明らかにした。主に、外来管理加算の影響による医療現場での混乱を把握するのが目的。竹嶋副会長は「今後の中医協などでの議論の基礎資料にする」と説明した。

竹嶋副会長は「中医協では診療報酬改定後、改定項目の調査・検証が行われ、必要な見直しを行っていく流れができています」と説明。今年度中に(1)病院勤務医の負担軽減の実態調査(2)外来管理加算の意義付けの見直しの影響調査(3)後発医薬品の使用状況調査(4)後期高齢者診療料の改定前後の状況・変化などの調査(5)後期高齢者終末期相談支援料の調査などを実施し、その結果に基づいて速やかに再度、議論することになっていると述べた。(J.M)

## 診療報酬は部門別収支を基に設定 次期改定で厚労省医療課長

厚労省保険局医療課の佐藤敏信課長は10月28日、内科系学会社会保険連合の例会で講演し、次回診療報酬改定で病院関連の評価は部門別収支を基に議論が進むことになるとの見通しを示した。病院の部門別収支計算の統一的方法が中医協のコスト調査分科会でまとまったことを踏まえ「次は全国の病院の中から抽出して部門別収支を出していく。これらのデータが各診療科ごとの点数配分に向けた議論の土台になる」とした。

佐藤課長は「診療報酬改定のポイントの1つは各科のバランスをとること」と指摘する一方、「最大の問題は病院で部門別収支計算ができないこと」と強調。あらためてエビデンスに基づいて点数設定することの重要性を強調した。さらに「部門別収支計算ができるようになると、それをよく見ながら病院の役割分担を進めることができるだろう」と述べ、部門別収支のデータは医療提供体制の再構築にも大きな影響力を持つことになるとの考えも示した。(メディファクス)

## 全国的に飛散量多く、飛散開始は例年並みか やや早い、関東から北では今年よりやや少ない

来年(2009年)のスギ・ヒノキ科花粉の飛散予測について、気象業務支援センターの村山貢司氏は「シーズン全体の飛散量は例年(過去10年間の平均)と同程度の地域が約半数、他は例年より30~50%多くなる見込み。飛散開始日は例年並みかやや早くなるであろう」とまとめている。

10月25日、NPO花粉情報協会(理事長=市立西脇病院耳鼻咽喉科部長・小笠原寛氏)の主催により都内で開かれた「2009年のスギ・ヒノキ科花粉予測セミナー」で、同協会のデータとして明らかにしたものの。

スギやヒノキの花粉量は前年夏の気象条件に大きな影響を受けることが知られている。今年(2008年)夏の気象は、一般的には猛暑というイメージが強かった。実際、2007年に比べ7月は日照時間が長く、高温であった。しかし、8月は気温の変動が大きく、雷を伴う雨が多かった。また、7~8月の2か月間を平均すると、日照時間は東海や北陸で前年より多かったが、関東から北と西日本は少なかった。一方、気温は東北で前年より低く、関東は前年並み、東海から西日本は前年並みかやや高い程度であった。雨量は局地的な大雨が多く、地域によるばらつきが多かった。

花粉飛散量に最も影響するのは7月の気象条件であり、8月の日照不足を考慮しても飛散量は例年を上回る地域が多い。しかし、6月と8月の気温と日照時間も影響するため、関東北部から北の地域では今年よりやや少なくなると見込まれている。(MTPro記事)

## レセプトオンライン請求、診療所は僅か1%程度

支払基金は10月28日の定例会見で、医療機関、薬局のレセプト電子・オンライン化の状況を示した。2011年4月にオンライン請求が原則義務化されるが、9月末現在の施設数ベースでは、医科、歯科、調剤全体で電子化は27.3%、オンライン化は2.8%にとどまった。特に、診療所は電子化が21.5%、オンライン化は僅か1.7%しか普及していないことがわかった。400床以上の病院は、電子・オンライン化ともに91.4%、病院全体では電子化40.8%、オンライン化17.8%だった。日医をはじめとする三師会は、オンライン請求の義務化撤廃を求める共同声明を出し歩調を合わせている。(RISFAX)

## レセプトオンライン請求Q&A

- Q 現在レセコンを使っておりレセプトは紙で提出していますが、オンライン請求をするためには、まず何をしたらよいでしょうか。
- A オンライン請求をするにはレセプト電算処理システムとオンライン請求システムが必要です。レセプト電算処理システムは、レセコン上で診療情報を電子化して電子レセプトデータを作るものです。そのためには病名をコード化する為の複雑な作業が必要です。オンライン請求システムでは、作成した電子レセプトデータを、回線を通して基金に送ります。パソコンや回線の準備も必要です。ディーラーのサポートが必要ですので、まずはディーラーにご相談ください。

第34回フォーラムは横浜市のパシフィコ横浜で来年の第34回フォーラムは東京都耳鼻咽喉科医学会の担当で、9月5日(土)6日(日)、横浜市のパシフィコ横浜で開催予定。分科会のテーマは1.めまい 2.難聴 3.上気道疾患と救急時の対応 4.頭頸部腫瘍の臨床と画像診断 5.レセプトオンライン請求 6.感染症対策が決まった。エクスカーションは分科会の前に、会場の前からマリーナクルージュに乗船してのクルーズ、市内観光など横浜ならではの企画を検討中である。

プロスタグランジンD<sub>2</sub>・トロンボキサンA<sub>2</sub>受容体拮抗剤  
アレルギー性鼻炎治療剤



バイナス<sup>®</sup>

錠 50mg  
錠 75mg

ラマトロバン錠

**Baynas<sup>®</sup>** 薬価基準収載

指定医薬品、処方せん医薬品(注意—医師等の処方せんにより使用すること)

効能・効果、用法・用量、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

販売(資料請求先:学術部)



**日本新薬株式会社**  
〒801-8550 京都市南区吉田区西門14  
http://www.nippon-shinyaku.co.jp

製造販売元



**バイエル薬品株式会社**  
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001  
http://www.bayer.co.jp/byl  
(2008年8月作成)